

令和7年度 事業報告書

I. 法人の運営状況

- 当法人は、幼保連携型認定こども園あいいくの丘の運営を行っている。また、丹波市からの委託を受け竹山アフタースクールを運営している。

令和7年度は、前年度と比較して年間を通じて未満児が少なかったことにより、資金収支面において影響があった。

(参考までに記す：社会福祉充実残額は約△104,400千円)

- 職員の処遇改善について、公定価格の改定や最低賃金の改正等により平均 5.3%の賃金改善となった。

II. 認定こども園あいいくの丘

(1) 利用定員 125名 (1号認定児 15名、2号・3号認定児 110名)

(2) 保育日数 2・3号認定児 292日(内希望児土曜保育 50日) 1号認定児 216日

(3) 令和7年度園児数

令和7年度 園児数																
	年齢	認定区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	
1号認定	3歳児	教育標準	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	4	32	
	4歳児	教育標準	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	
	5歳児	教育標準	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	30	
	小計			7	7	7	7	7	7	9	9	9	9	10	10	98
2・3号認定	0歳児	標準時間	0	0	0	2	3	5	5	5	5	5	5	5	5	40
		短時間	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6
	1歳児	標準時間	18	18	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	230
		短時間	7	7	5	5	5	6	7	7	7	7	7	7	7	77
	2歳児	標準時間	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	95
		短時間	4	4	4	4	4	4	4	4	5	5	4	4	5	51
	3歳児	標準時間	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
		短時間	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	4歳児	標準時間	19	19	19	19	19	19	20	20	20	20	20	20	19	234
		短時間	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	9	9	10	114
	5歳児	標準時間	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
		短時間	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
小計			113	113	113	115	116	119	120	121	121	120	120	120	1,411	
合計			120	120	120	122	123	126	129	130	130	129	130	130	1,509	

(4) 職員数 (法人)

・令和 7年 4月 1日・・・54名

事務長1名、園長1名、副園長1名、主幹保育教諭2名、給食室主任(管理栄養士)1名、看護師1名、保育教諭24名、保育士7名、保育補助2名、管理栄養士1名、栄養士1名、調理師1名、調理員1名、事務職員2名、バス運転手2名、アフタースクール支援員6名

・令和 8年 3月31日・・・54名

事務長1名、園長1名、副園長1名、主幹保育教諭2名、看護師1名、保育教諭23名、保育士7名、保育補助2名、管理栄養士2名、栄養士1名、調理師2名、調理員1名、事務職員2名、バス運転手2名、アフタースクール支援員6名

(5) 行事

月	主 要 業 務 事 項
4	1. 入園・進級式、保護者会総会(書面表決) 14~25. 個別懇談(新入園児、前年度途中入園児及び希望の保護者) 18. たいよう組:いちご祭り
5	1. 12. 13. 16. 20. 22. 3園交流会 8. 丹波市巡回相談 9. ひかり組・たいよう組:花まつり 19. 23. 内科健診 20. たいよう組:尿検査 21. ふらっと参観 28. サツマイモのつるさし 31. 奉仕作業(保護者会)
6	2. 水あそび(泥あそび)開始(幼稚園部) 2~6. 中学生トライやる・ウィーク 6. オープン参観、引き渡し訓練、職員全体研修 10. 保育実践コーディネーター巡回支援 11. たいよう組:よもぎパンづくり 13. 3園交流会 17. 歯科検診 18. 24. ふらっと参観 19. 23. 水難救助・AED講習
7	1. プールあそび(幼稚園部)、水あそび(保育園部)開始 2. 30. 3園交流会 6. 奉仕作業(保護者会) 7. ふらっと参観 11. たいよう組:チャレンジ保育 15. 福知山市巡回相談 16. 総合避難訓練 25. 夏のお楽しみ会 31. 市島地域幼小連携研修会
8	1~31. 1号認定児夏休み 24. 社会福祉法人就職フェア 27. 丹波市巡回相談(市島地域)
9	2. 3. 4. 5. 3園交流会 4. ふらっと参観 7. 奉仕作業(保護者会) 10. 市島地域人権・同和教育研修会 12. オープン参観 17. 民生委員・児童委員連絡会 18. 交通安全教室 25. 入園説明会
10	7. 総合避難訓練 7. 8. 消火訓練 9. 3園交流会 10. 17. 内科健診 12. 丹波竹田祭(たいよう組希望者) 16. 丹波市教育支援委員会訪問 25. あいいくの丘運動会 26. たいよう組:竹田ふれあいまつり作品展 示 29. ほし・にじ・つき組:バス遠足 30 サツマイモほり(幼稚園部、保育園部)
11	2. たいよう組:いちじまいきいきフェスタ作品展示 5. 6. 3園交流会 7. 収穫祭 10. 特別支援保育検討委員会訪問 11. つき組:クニニュータナ教室ファイナル 14. そら組:参観日 18. たいよう組:ムッレ教室ファイナル、ねじりパンづくり 20. ひかり組:ムッレ教室ファイナル 21. ひかり組:バス遠足 26. たいよう組:バス遠足 27. たいよう組:就学時健康診断(市島地域) 28. 竹山小学校5年生との交流
12	6. あいいくフェスタ Part1 9. たいよう組:竹山小学校5年生との交流 9. 保育実践コーディネーター巡回支援 10. 人形劇鑑賞(劇団バク) 12. 丹波市巡回相談 17. 市島地域幼小連携研修会 17. 福知山市巡回相談 19. クリスマス会 27~1/6. 1号認定児冬休み
1	7. 新年おめでとう会 14. どんど焼き 15. 苦情解決に関する第三者委員会

2	3. 節分豆まき会 6. 市島地域小学校入学説明会 7. あいいくフェスタ Part2 18. ふらっと参観 19. 入園説明会 26. 27. 竹山小学校体験登校 27. 竹山小学校体験入学 ※福知山市内各小学校・支援学校入学予定の園児保育参観・引継ぎ
3	3. ひなまつり 4. 丹波市巡回相談（市島地域） 6. たいよう組とお別れ会 10. たいよう組：お別れバス遠足 19. 卒園・修了式、たいよう組：お別れ会（保護者会） 20～31. 1号認定児春休み

※週・月間行事・・・清潔検査、絵本貸出、食材体験、異年齢児活動、誕生会、避難訓練
身体計測、交通安全指導

※年間行事・・・ムッレ教室・クニニュータナ教室（春・秋、3歳～5歳児）
野菜づくり・収穫・クッキング、英語あそび（3歳～5歳児）
かがくタイム（5歳児）、小学校との交流、地域との交流

※実習受入状況・・・調理実習1名（7/8～7/10）、保育実習1名（7/28～8/8）

(6) 保健衛生（保健室）

月	主 要 業 務 事 項
5	20. たいよう組：尿検査 19. 23. 内科健診
6	2. たいよう組：フッ素洗口指導 17. 歯科検診
10	10. 17. 内科健診

※ 月1回：身体計測 週1回：清潔検査（爪、髪） 随時：希望保護者との健康相談

※ 体調不良児 206名

※ 職員健診（5月～3月） 全員受診

※ 職員インフルエンザ予防接種

※ 薬剤師による環境調査（6月）

※ 保育事故防止に向けた取組

(7) 食育活動（給食室）

月	主 要 業 務 事 項
4	25. 誕生会
5	16. 誕生会 20. 食材ウォッチング（サツマイモ）
6	11. たいよう組：よもぎパンづくり 20. 誕生会
7	18. 誕生会 23. 食材ウォッチング（夏野菜）
8	8. 誕生会
9	5. 誕生会
10	3. 誕生会 30. サツマイモほり
11	7. 収穫祭 13. 誕生会 18. たいよう組：ねじりパンづくり
12	9. 食材ウォッチング（杵・臼） 19. クリスマス誕生会
1	7. 食材ウォッチング（七草） 16. 誕生会
2	3. 節分豆まき会 10. 三色群分け（たいよう組） 13. 誕生会 18. 食材ウォッチング（給食室探検）

※ 給食献立掲示 アレルギー対応

(8) 特別支援保育

対象園児7名・・・コーディネーター1名、加配保育教諭7名

(9) 認定こども園運営の概要

① 教育・保育

- ・新型コロナで学んだ教訓を活かし、基本的な感染対策に継続して取り組むとともに、通園バスにおける置き去り防止対策など、行政からの通知等を踏まえ、安全・安心を第一に、園運営に全職員一丸となり取り組んだ。
- ・園目標「五感で四季の移り変わりを感じ、自然と共にたくましく育つ子」の育成をめざし、「ムッレ教室」「クニニュータナ教室」をはじめ、各クラスで自然に親しむ活動に積極的に取り組んだ。日本野外生活推進協会主催の「森のムッレ教室リーダー養成講座」を積極的に受講（4名）するなど、指導者の育成にも引き続き取り組んだ。
- ・「園児も保育者もわくわくした保育」をテーマに、園児にとって園が楽しく、居心地の良い場所となるよう、年間を通して園児一人一人の興味・関心や発達段階等にふさわしい環境構成を工夫し、保育実践に努めた。
- ・各クラスに1台導入のタブレット（令和4年度末導入）により、ICTを活用したドキュメンテーション（日々の保育活動の継続した記録、保育活動の見える化・振り返り）が定着し、有効活用できた。保育者が、一人一人の園児理解を深め成長に気づいたり、保育活動を深めたり見直したりする機会となり、日々の保育活動を振り返り、保育者の指導力向上に役立つとともに、業務改善に繋がった。また、日々、お知らせアプリ「イロドリリンク」を通して、ドキュメンテーション（園児の園生活や活動の様子）を保護者に配信することで、家庭との連携や信頼強化に着実に繋がった。
- ・外部講師を招いた「かがくタイム」（4年目、年間8回、5歳児対象）を継続実施した。園児の「なぜ？どうして？」を大切に、園児の興味・関心や科学の楽しさを実感できるようにすることで「筋道を立てて考える力」や「自分で問題解決する力」の基礎を育むことができた。
- ・ネイティブ講師を招き、「英語あそび」（年間8回、3歳～5歳児対象）を継続実施した。遊びやゲームを取り入れたり、英語の絵本を見たり歌を歌ったりするなど、楽しんで英語に触れながらコミュニケーション力を育てることができた。
- ・幼児期と児童期の円滑な接続、教育の連続性・一貫性を大切に、「人と関わる力」、「生活する力」、「学ぶ力」の3つの柱を掲げ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を基に、「学びの芽生え」（興味の広がり、気づき等）を培う保育実践に引き続き取り組んだ。
 - ※「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」（幼保連携型認定こども園教育・保育要領）
 - ①健康な心と体、②自立心、③協同性、④道徳性・規範意識の芽生え、⑤社会生活との関わり、⑥思考力の芽生え、⑦自然との関わり・生命尊重、⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、⑨言葉による伝え合い、⑩豊かな感性と表現
- ・「竹山小学校」（竹田小学校・前山小学校統合、令和6年度開校）との間で、より一層「幼小連携」を強めるため、本園5歳児（たいよう組）と小学5年生が相互にこども園及び小学校を訪問し合い交流をする「5・5交流」に積極的に取り組んだ。新入学直前の3月には、本園5歳児が小学校をプレ体験する「体験登校」「体験入学」の取組を小学校と連携し

て計画的に実施した。

- ・地域との連携では、5歳児（たいよう組）を中心に、石像寺「花まつり」（5月）や「丹波竹田祭」（10月）等に参加するとともに、更生保護女性会の方とのサツマイモほり交流等を継続して行い、地域の方々との交流を深めた。
- ・園児の健康管理やアレルギー対応等については、看護師及び管理栄養士の指導の下、職員全員が情報を共有し、職員間での連絡の徹底、密接な連携により、体調不良児の迅速な家庭への連絡等の対応、食物アレルギーの未然防止等に努めた。
- ・食育活動として、各クラスで野菜を栽培し成長観察を行うとともに、ピーマン、パプリカ等の夏野菜クッキングを行った。また、秋の「収穫祭」（11月）では、サツマイモを用い、ふかし芋や焼き芋を行った。野菜を育てたり収穫したりする活動を継続して行い、園児が食の大切さや楽しさを学ぶ機会とした。
- ・特別な支援を必要とする園児の支援については、特別支援教育コーディネーターを中心に、保護者は勿論のこと、丹波市・福知山市等の関係機関と密接に連携を図るとともに、園内における支援方法について検討し、個別最適な支援をめざした保育実践に積極的に取り組んだ。
- ・「持続可能な」職場の勤務環境づくりをめざし、教育保育室や給食室の業務内容・方法を絶えず見直し、保育等の質を落とさず、持続可能な業務内容・方法となるよう、引き続き工夫改善を図った。特に、常勤職員一人一人の勤務時間終了後の退勤時刻が早まり定着した。今後も、ワーク・ライフ・バランスを大切に、職員が働きやすく心身ともに健康で明るく元気に働き続けられる、風通しの良い職場環境づくりを積極的に推進していく。

② 職員研修

- ・園児の「主体性」を育む保育実践の質的向上をめざし、本園の保育の考え方や保育実践の在り方、めざす環境づくりや保育者の役割等を全職員で再確認、共通理解を行い、全クラスで歩調を合わせた保育実践研究を組織的・継続的に推進した。
- ・園内研修の日常的な取組として、「ふらっと参観」（令和6年度から実施）に引き続き取り組んだ。クラスで日々行っている普段の保育を、他のクラスの保育者が参観する機会を設定し、事後研修でお互いの悩みや解決の糸口等を話し合い、日常の保育を通じた保育者相互の学び合いによる指導力向上に取り組んだ。
- ・丹波市教育委員会指導主事を講師として招へいし、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を基に、「その子らしさを大切に、園児一人一人に応じるための基本姿勢や関わり方」をテーマにした「職員全体研修会」（6月、42名参加）を開催し、本園の教育・保育のあり方について職員間で再確認や共通理解、振り返りを行い、保育者としての資質・能力の向上を図った。
- ・認定こども園あおがき、いちじまこども園、本園の3園が連携し、「3園交流会」（令和6年度から実施）を引き続き実施した。クラス（0歳～5歳）毎に、保育者がいずれかの会場園に集まり、会場園での普段の保育を参観した後、日頃の悩み等を含めた交流（話し合い）を行い、三園間の職員交流、連携強化を図った。保育園部主任や幼稚園部主任、給食室職員等、職務に応じた職員毎の交流を含め、各々の交流会を年間各2回実施した。
- ・「竹山小学校」との間で、より一層「幼小連携」を強めるため、こども園及び小学校職員の合同研修会（幼小連携研修会）を年間2回開催し、5歳児から小学1年生の2年間の「架け橋期」のカリキュラムづくりを推進した。
- ・「保育士等キャリアアップ研修」については、丹波市教育委員会が実施する研修をはじめ、

兵庫県保育協会が実施するオンライン研修等を活用し、積極的・計画的に受講（6名）し、職員の専門性向上を図った。

- ・その他、丹波市教育委員会こども育成課や丹波市保育協会等が実施する各種研修会を積極的に受講（全常勤職員）し、職員の資質・能力の向上を図った。

③ 家庭との連携

- ・こども園は、子どもが初めて親から離れ協同して社会生活をする場であることを十分認識し、新入園児に対しては、園児はもとより保護者の方にも安心感が持てるよう、きめ細やかな連絡・連携を取ることを常に心掛け、誠意をもって保護者に寄り添う対応を行った。進級児に対しても、保護者の声には常に耳を傾け、また家庭での様子も把握しながら、園と家庭との連携強化に努めた。
- ・保護者の要望等には十分傾聴し、内容をしっかり受け止めたうえで、全ての保護者に対して公平であることを常に意識して対応するとともに、保護者の声を園運営の改善等に活かすように努めた。
- ・園だより等の各種たより、「よい子ネット」、「イロドリリンク」、ホームページ等、ICTを積極的に活用し、家庭へのお知らせや連絡、園児の様子、子育て支援の情報等を適時発信し、保護者の理解や信頼が深まるよう努めた。

(10) 子育て支援室の開設

○ 開催回数 96回、利用者数 271名（親子延べ人数）

- ・地域在住の未就園の親子を対象とした「わくわくひろば」（週2回）を開催するとともに、電話や面談等で個別相談に応じる等、積極的に子育て支援に取り組んだ。
- ・「わくわくひろば」には、経験豊かなベテラン職員を配置し、子育てについて気軽に話せたり、参加親子の交流が深まったりする場づくりを常に意識するとともに、「わくわくひろばだより」（月1回）を発行し地域（未就園児家庭）に各戸配布し、地域の未入園児家庭に向けた情報発信を継続して行った。
- ・保育体験として、園行事への親子の参加を呼びかけたり、「わくわくひろば」で園外に散歩に出かけたりするなど、親子のふれいあいを深めた。

Ⅲ. アフタースクールの運営

○ 竹山アフタースクール登録児童数 令和7年4月 48名 ・令和8年3月 44名

- ・下校後の児童が安らぐ環境を意識し、安心安全に時間を過ごせるように配慮した。
- ・コーディネーターを中心に小学校との連携を十分に取り、アフタースクールでの児童の様子を見学してもらったり、担任との懇談を行ったりするなど情報共有に努めた。
- ・兵庫県主催の支援員研修会や市内の受託法人主催の支援員等研修会に参加し、支援員の資質向上を図った。

※月1回防災訓練の実施 ※支援員研修会参加（随時） ※保健衛生の講話（随時）